

## ブラジル金融市場における外国金融機関の活動と経営効率性の検証

九州大学大学院経済学府

伊鹿倉 正司\*

### 報告目的と背景

90 年代中葉以降、欧米系金融機関の途上国地域（アジア、東欧、ラ米）への進出が急増（表 1 参照）

要因：外銀規制の緩和、途上国向け直接投資の増大、カントリーリスクの低下 高い経済成長性、先進国地域における金融機関間競争の激化等

今回の報告では、ブラジル金融市場を対象に以下の 3 点を明らかにする。

1. 外国金融機関進出の要因
2. 外国金融機関の進出状況と現地金融活動
3. 外国金融機関の経営効率性

### 1. ブラジルへの外国金融機関進出の要因

#### 外国金融機関のブラジル金融市場進出の歴史

19 世紀後半	英系金融機関や独系金融機関の進出が開始
1915 年	National City Bank of New York( 現 Citibank )がサンパウロ支店を開設。 その後、米系金融機関の進出が活発化
1964 年	ブラジル政府は、外国金融機関の新規参入を禁止
70 年代後半	ブラジルに支店を有している外国金融機関は 17 行。これらの金融機関は、 主に貿易金融業務や企業向け貸付業務に従事。例外的に、大都市において 個人向け貸付業務を行っていた
1988 年	憲法暫定規定法により外国金融機関の新規支店開設及び現地金融機関へ の出資拡大の禁止が法的に定められる

90 年代初頭まで、参入規制、業務規制等により外国金融機関の現地活動は低調であった。

---

\* igakura@en.kyushu-u.ac.jp

1995 年に、支店開設及び現地金融機関への出資規制等の参入規制が大幅に緩和  
背景：95 年の金融不安（銀行危機）の発生

#### 銀行危機発生のメカニズム

銀行危機発生前のブラジル銀行市場・・・発展度の低い国内金融仲介（高インフレと、その下  
での「フロート益<sup>1</sup>」の存在）（表 2 参照）

94 年のレアル計画によりフロート益が消滅。公的金融機関を中心に急激に収益性が悪化

収益性回復を狙った高リスク貸出への傾斜

貸出資産の急速な劣化（＝大量の不良債権の発生）

民間金融機関の中に実質的な債務超過状態に陥った金融機関が発生

幾つかの金融機関が経営破綻（例：Banco Economico）

その他の債務超過に陥った金融機関から預金が流出（流動性危機の発生）

ブラジル政府は、銀行危機の深刻化を回避するために 95 年末より銀行再編プログラム  
（民間金融機関の再編、中央銀行の規制・監督体制の強化、公的金融機関の整理・民営化、  
外銀規制の緩和）を実施（西島[2000]）

なぜ外銀規制の緩和が再編プログラムに盛り込まれたのか？

- ・ 外国金融機関への期待（後述）
- ・ 財政負担の軽減

## 2. 外国金融機関の進出状況と現地金融活動

外銀規制緩和後、外国金融機関の支店新設が増加するが、97 年以降、外国金融機関によ  
る現地金融機関の買収が活発に行なわれる

---

<sup>1</sup> フロート益とは、要求払預金や当座預金が金融機関に滞留する間にインフレによって実質価値が低下し、  
その低下分が金融機関の利益となるもので、1993 年当時で GDP の約 4%に達していたとされる。

外国金融機関による現地金融機関の主な買収事例

時期	買収金融機関	被買収金融機関
97 年 2 月	Banco Santander (スペイン)	Banco Geral do Comercio
97 年 5 月	HSBC (英国)	Banco Bamerindus
97 年 8 月	Banco Santander	Banco Noroeste
98 年	Banco Bilbao Vizcaya (スペイン)	Banco Excel Economia
98 年 7 月	Credit Swiss First Boston (スイス)	Garantia
98 年 8 月	ABN Amro (オランダ)	Banco Real
00 年 2 月	Banco Santander Central Hispano (BSCH)	Banco Meridional
00 年 2 月	Banco Bilbao Vizcaya Argentaria (BBVA)	Caixa Geral do Depositos
00 年 11 月	BSCH	Banespa

90 年代後半から 2000 年初頭にかけての相次ぐ現地金融機関の買収により、外国金融機関のブラジル金融市場におけるプレゼンスは大きく拡大

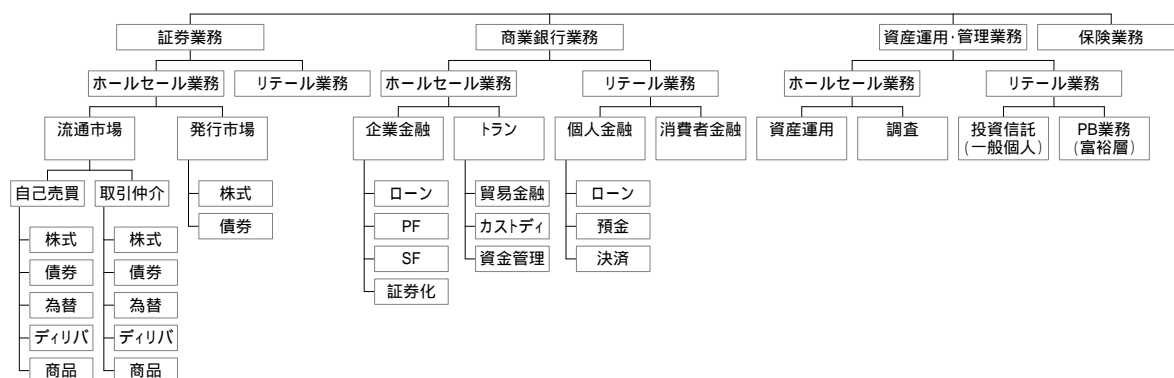
純利益、総資産、預金量 貸出量における各金融機関のシェアの推移 (表 3 参照)

外国金融機関の母国別純利益、総資産、預金量、貸出量のシェア (表 4 参照)

ブラジル金融市場における金融機関の総資産量ランキング (表 5 参照)

外国金融機関の現地金融業務も多様化が進んでいる

主な金融業務



注) ホールセール業務・・・企業向け業務 リテール業務・・・個人向け業務

現地金融業務が、これまでの商業銀行業務 (特にホールセール業務) 中心の業務から、商業銀行業務 (リテール業務) や資産運用業務等に拡大をみせている

また、外国金融機関内でも、現地金融機関を買収した金融機関とそうでない金融機関の金融活動に大きな違いが存在する（表 6 参照）。前者は、現地金融機関と広範な業務で競合関係にある。

#### 2003 年の動き

- (1) Banco Bilbao Vizcaya Argentaria (スペイン) のブラジル市場からの大幅撤退
- (2) Sudameris (イタリア) の完全撤退 ABN Amro (オランダ) が買収

### 3. 外国金融機関の経営効率性の検証

近年、外国金融機関の進出が途上国金融市場の金融仲介の効率性が向上させ、経済成長を促進させるという議論が活発に行なわれている（World Bank [ 2001 ]）。

外国金融機関が途上国金融市場にもたらす効果（Levine [ 1996 ]）

- (1) 資本流入の拡大、(2) 銀行間競争の活性化による金融サービスの質の向上、(3) 監督規制制度、会計制度、法制度等の金融インフラ整備の促進

現地金融機関と比較して経営効率性の高い外国金融機関の参入

金融機関間競争及び外銀からの技術移転によって現地金融機関の経営効率性が向上  
情報生産機能[ スクリーニング機能、モニタリング機能 ]、資産変換機能、リスク分散機能、  
決済機能の向上 = 取引費用の削減 )

途上国金融市場の効率的金融仲介を促進

+

金融インフラ（会計制度、決済制度、法制度、監督・規制体制）の質の向上

途上国の経済成長を促進

#### 先行実証研究

##### 現地金融機関と比較して経営効率性の高い外国金融機関の参入

経営効率性の高い金融機関とは？

「生産性の高い」もしくは「費用節約的な」金融機関を指す。このような金融機関は、他の金融機関と比較して、低費用で質の高い金融サービスを利用者に提供できると期待される。

- ・ IMF [ 2000 ] ( 表 7 参照 )
- ・ Berger et al.[2000]...進出先が先進国の場合、外国金融機関の収益性や費用効率性は、現地金融機関と比較して劣っている（但し、米銀の場合は例外）。進出先が途上国の場合、外国金融機関の収益性や費用効率性は、現地金融機関と比較して優れている

#### 金融機関間競争及び外銀からの技術移転によって現地金融機関の経営効率性が向上

- ・ Claessens et al.[2001]...途上国への外国金融機関の進出が、現地金融機関の営業費用を減少させている（コロンビア...Barajas et al.[1999]等）

#### 途上国金融市場の効率的金融仲介を促進

- ・ Bhattacharaya[1993]...トルコにおいて外国金融機関が参入した前後で、信用状の手数料が 1.5%から 0.5%に、保証状の手数料も 4%から 1%に低下。
- ・ MacFaden[1994]...外国金融機関の参入によって、企業向け貸出金利が、参入前にはオーストラリア財務省証券の利子率を 75～100 ベーシス・ポイント上回っていたものが、参入後には 25～50 ベーシス・ポイントに低下。

しかしながら、外国金融機関の参入によってもたらされる正の影響は、現地金融機関及び現地監督規制当局がポジティブな反応を示した場合のみに生じるものであって、ネガティブな反応を示した場合には負の影響をもたらすかもしれない（奥田[2003]）。

- ・ Unite and Sullivan[2003]...外国金融機関の参入によって、現地金融機関が保有する貸出債権の信用リスクが高まった

#### 今回の報告は、外国金融機関の経営効率性の検証を行う

##### 問題意識

- ・ 外国金融機関の経営効率性は、常に現地金融機関より優れているのか
- ・ 外国金融機関が中長期的に進出国に留まるかどうか

経営効率性の検証方法・・・費用非効率性（cost inefficiency）の概念を用いる

費用非効率性とは？

A 金融機関が B 金融機関と比較して費用効率性で劣っている、すなわち費用非効率的存在であるというのは、B 金融機関と同量の生産物を生産しているにも関わらず、B 金融機関よりも多くの生産費用を必要としてしまうことを指す

Farrell[1957]によれば、費用非効率性は、技術的非効率性（technical inefficiency）と資源配分上の非効率性（allocative inefficiency）の存在によって生じる

**技術的非効率性**・・・投入された生産要素のある組み合わせによって技術的に実現可能な最大の生産を達成できないため発生する非効率性（例：過剰人員、過剰店舗、過剰な資金調達）

**資源配分上の非効率性**・・・生産要素の限界生産力と価格が等しくならぬために発生する非効率性（例：割高な人件費、必要以上に豪華な設備、割高な資金調達費用）

$$\text{費用非効率性} = \text{技術的非効率性} \times \text{資源配分上の非効率性}$$

費用非効率性の計測方法

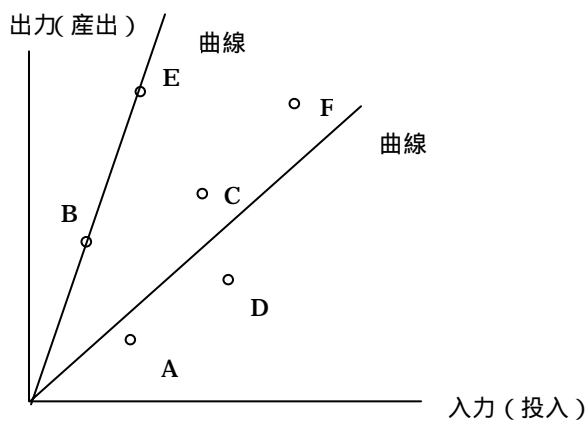
[1]パラメトリック・アプローチ

フロンティア生産関数もしくは費用関数の関数型を特定化（例：コブ・ダグラス型、トランスログ型）して、非効率性を計測する方法 例：確率論的フロンティアモデル

[2]ノン・パラメトリック・アプローチ

フロンティア生産関数もしくは費用関数の関数型を特定化せずに、線型計画法を用いてフロンティア関数を求め、非効率性を計測する方法 例：包絡分析法（Data Envelopment Analysis = DEA） 今回の報告で用いる手法

パラメトリック・アプローチとノン・パラメトリック・アプローチの違い



曲線 ……関数型が特定化されているフロンティア曲線

曲線 ……包絡分析法（DEA）によって求められたフロンティア曲線

包絡分析法（DEA）の基本的な考え方

観測されたデータから最も効率的な経営を行なっている企業(上記の図では B と E が該当)を基準として、他の企業の効率性を計測する

### 検証対象

ブラジル国内の主要 25 金融機関（公的金融機関 6 行、現地民間金融機関 9 行、外国金融機関 10 行）

### 使用データ

各金融機関の 2002 年の四半期ごとの業務粗利益、資金調達費用額、従業員数、固定資産額、平均資金調達費 人件費、物件費の平均値

技術的非効率性の検証・・・出力変数：業務粗利益 入力変数：資金調達費用額、従業員数、固定資産額

資源配分上の非効率性の検証・・・出力変数：業務粗利益 入力変数：平均資金調達費 人件費、物件費

### 検証結果（表 8 参照）

（注：DEA では、最も経営効率的な値を 1、最も非効率的な値を 0 と表現される）

- ・ 全体的な費用非効率性の値は 0.7532(最も経営効率的な金融機関と比較して約 25%の費用の無駄が生じている)
- ・ 全体的に、資源配分上の非効率性 (0.8982) よりも技術的非効率性 (0.8352) の方が大きい。特に公的金融機関が顕著
- ・ 民間金融機関、公的金融機関と比較して公的金融機関の費用非効率性が大きい(最も経営効率的な金融機関と比較して約 30%の費用の無駄が生じている)
- ・ 特に、公的金融機関下位 3 行 (Nossa Caixa、Banrisul、BNB) の技術的非効率性が大きい・・・過剰店舗、過剰人員が原因か
- ・ 全体的に、金融業務が投資銀行業務に特化しているとされる金融機関 (Alfa、BankBoston、J.P. Morgan Chase) の資源配分上の非効率性が大きい・・・人件費の膨張が原因か

### 報告のまとめ

- ・ ブラジル金融市場への外国金融機関の進出は、ブラジル政府の 95 年の金融不安(銀行危機)発生後の外銀政策の転換により、急速に進行した
- ・ 主たる進出形態として、97 年以降、現地金融機関の買収が活発に行なわれてきた
- ・ 現在、外国金融機関の資産量、純利益、預金量、貸出量の国内シェアは約 3 割に達している
- ・ 現地金融機関を買収した外国金融機関の現地金融業務は広範にわたり、現地金融機関と多くの業務で競合関係にあると推測される
- ・ 2003 年に入って、外国金融機関のブラジル市場からの退出が目立っている
- ・ 外国金融機関の経営効率性は、現地金融機関と比較して特に優れているわけではない

## 参考文献

- 奥田英信[2003]、「外国銀行の進出と途上国の経済発展」を考える」『一橋論叢』第 129 巻 4 号、361 - 381 頁。
- 西島章次[2000]、「ブラジルの銀行システム - 通貨危機とその後 - 」mimeo。
- Barajas, A., Salazar, N. and Steiner, R. [2000],“Foreign investment in Colombia’s financial sector,” *Journal of Development Economics*. 63 (1), pp157-196.
- Beck, T. [2000],“Impediments to the Development and Efficiency of Financial Intermediation in Brazil,” *Policy Research Working Paper* No. 2383, World Bank.
- Bhattacharaya, J. [1993],“The Role of Foreign Banks in Developing Countries: A Survey of the Evidence,” Cornell University, mimeo.
- Farrell, M.J. [1957],“The Measurement of Productive Efficiency,” *Journal of Royal Statistical Society*. 120, pp. 253-281.
- IMF. [2000], *International capital Markets: Developments, Prospects and Key Policy Issues*, IMF, Washington, DC.
- Levine, R. [1996], “Foreign Banks, Financial Development, and Economic Growth,”in Barfield, C.E.(ed), *International Financial Markets: Harmonization versus Competition*, AEI Press.
- McFadden, C. [1994], “Foreign Banks in Australia,” The World Bank, mimeo.
- Unite, A. and Sullivan, M.J. [2003], “ The Impact of Liberalization of Foreign Bank Entry on the Philippine Domestic Banking Markets,” *Journal of Banking And Finance*. (forthcoming)
- World Bank[2001], *Finance and Growth*, Oxford University Press.